

ヘルプマーク 理解促進へ講座 静岡のNPO

NPO法人オールしずおかベストコミュニティ（静岡市駿河区）は19日、外見では分かりにくい障害や病気のある人が携行する「ヘルプマーク」への理解を深めてもらう出前講座を同市駿河区の静岡ガス本社で開いた。

オンラインも含め、同社の社員4人が参加した。ヘルプマーク利用者の適切な援助を知ってもらうことが目的。同法人工賃支援部の渡辺佐妃子さんは「利用者は障害や病気をとるわけではない。見守ることも配慮の一つ」と説いた。

参加した長阪伸哉さん（51）は「困っている人に声をかけ、マークの記載内容を確認し、適切な支援を考えて行動する流れを実演した。」

（令和6年9月21日・静岡新聞）



ヘルプマークについて説明する渡辺さん（静岡市駿河区の静岡ガス本社）

ヘルプマーク学んで 裾野高で静岡のNPO講座

認定NPO法人オールしずおかベストコミュニティ（静岡市駿河区）は20日、外見で分かりにくい障害や病気のある人が携行する「ヘルプマーク」を学ぶ出前講座を裾野市の裾野高で開いた。福祉分野を学ぶ「福祉介護系列」の2年生22人がヘルプマークの意味や携帯する人への対応を学んだ。

県から委託を受けたヘルプマ



ヘルプマークを実際に手に取る生徒＝裾野市

ヘルプマーク周知へ 理解促進フォーラム 静岡で県など 県と認定NPO法人オールしずおかベストコミュニティはこのほど、援助や配慮が必要な人のために作られた「ヘルプマーク」の周知と理解促進を図るフォーラムを静岡市駿河区で開いた。 後藤祥生センター長と全国心臓病の手を守る会、支部の太石裕香さん、ラジオパーソナリティーのしなづちさんが登壇し、マークの必要性や普及への課題などを紹介した。 後藤センター長は「病名がなくても、例えば熱中症になりやすいなどの理由で付けてもいい」と説明し、障害者や病人だけのマークではないことを強調。大石さんは、マークは病院や障害福祉関係の施設で配布しているとし、「使う、高いうことのハードルが低い。駅などで誰でももらえるようになれば」と期待した。 マークの普及には、医療機関からの積極的な情報発信や企業との協力などが必要とした。 フォーラムには福祉関係者ら20人が参加した。



ヘルプマークの必要性などを紹介したフォーラム（静岡市駿河区）

昼休憩に「福産品」いかが 静岡ガス富士支社で 障害者施設が販売

富士市の静岡ガス富士支社は30日、障害のある人が手がけた商品「福産品」の販売会を同社で行った。昼休憩の時間帯に総菜パンや弁当など約25種類170点が並び、多くの社員が好みの商品を買求めた。

県内企業と福祉事業所をつなぐNPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」の協力を得て開催した。いずれも就労継続支援B型事業所の「ふれあいショップあゆみ」（富士市）と「朝霧みどりの家」（富士宮市）が出品。利用者が売り子を務め、おすすめの商品の紹介などを通じて元気づけ社員と交流した。

同社の地域貢献活動の一環で、静岡市の本社に続いて2回目の開催。



「福産品」のパンを購入する社員（富士市の静岡ガス富士支社）

ヘルプマークの必要性などを紹介したフォーラム（静岡市駿河区）

ヘルプマークの必要性などを紹介したフォーラム（静岡市駿河区）



ヘルプマークの必要性などを紹介したフォーラム（静岡市駿河区）

メイクの楽しさ知って 就労支援施設利用者に講座 中央区

障害者福祉支援に取り組むNPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」はこのほど、障害者就労支援施設の利用者にメイクやスキンケアの方法を伝える「ビューティーセミナー」を浜松市中央区のウエルシア薬局浜松西町店で開いた。

企業の社会貢献活動と福祉施設などのニーズをマッチングする県の「企業CSR連携促進事業」の一環。同薬局と資生堂ジャパン（東京都）の社員が講師を務め、同区の就労継続支援B型事業所の「あぐり」の20、30代の利用者4人が参加した。

参加者は社員のアドバイスを受けながら、化粧水を塗ったり眉毛を描いたりして、第一印象を良くする身だしなみのポイントを学んだ。

同薬局で化粧品販売などを担当する中島路さん（39）は「化粧をすることで、自信を持つコミュニケーションが取れるようになる。楽しさを実感してもらいたい」と話した。



メイクやスキンケアの方法を学ぶ参加者ら（浜松市中央区のウエルシア薬局浜松西町店）

皮革端材 雑貨にリメイク

自動車部品メーカーの日本プラストと県東部の2福祉事業所が3月31日まで、廃棄されるはずだった同社の皮革端材などを用いて制作した雑貨約20点を、沼津市の三井住友信託銀行沼津支店で展示している。

いずみ（富士宮市）とブルービート（伊豆の国市）の2事業所の利用者らが、車のハンドルやエアバッグの製造過程で生じる端材を、バッグやキーホルダーに生まれ変わらせた。

同支店のSDGs（持続可能な開発目標）や地域貢献活動の一環。担当者は「環境問題や障害者の就労について発信する機会にしたい」と話す。



皮革端材などを用いて制作した雑貨＝沼津市

皮革端材 雑貨にリメイク

自動車部品メーカーの日本プラストと県東部の2福祉事業所が3月31日まで、廃棄されるはずだった同社の皮革端材などを用いて制作した雑貨約20点を、沼津市の三井住友信託銀行沼津支店で展示している。

いずみ（富士宮市）とブルービート（伊豆の国市）の2事業所の利用者らが、車のハンドルやエアバッグの製造過程で生じる端材を、バッグやキーホルダーに生まれ変わらせた。

同支店のSDGs（持続可能な開発目標）や地域貢献活動の一環。担当者は「環境問題や障害者の就労について発信する機会にしたい」と話す。



皮革端材などを用いて制作した雑貨＝沼津市

製品300点を販売 浜松のイオンで

浜松市内の障害福祉事業所の利用者が手がけた製品を販売するイベントが、同市中央区志都呂のイオンモール浜松志都呂であった。

NPO法人オールしずおかベストコミュニティ（静岡市）が開き、8事業所が参加。店頭には焼き菓子やアクセサリ、縫製品など約300点の製品が並んだ。

猫やだるまの置物を製作した浜名区の人形将太さん（31）は「多くの人に自分が作ったものを手に取ってもらえるのに立ち会えると、作業したかいがあると感じる。これからも陶芸品作りに力を入れたい」と話した。

（服部剛士）



会場に並ぶ手作り製品（浜松市中区のイオンモール浜松志都呂）

製品300点を販売 浜松のイオンで

浜松市内の障害福祉事業所の利用者が手がけた製品を販売するイベントが、同市中央区志都呂のイオンモール浜松志都呂であった。

NPO法人オールしずおかベストコミュニティ（静岡市）が開き、8事業所が参加。店頭には焼き菓子やアクセサリ、縫製品など約300点の製品が並んだ。

猫やだるまの置物を製作した浜名区の人形将太さん（31）は「多くの人に自分が作ったものを手に取ってもらえるのに立ち会えると、作業したかいがあると感じる。これからも陶芸品作りに力を入れたい」と話した。

（服部剛士）



会場に並ぶ手作り製品（浜松市中区のイオンモール浜松志都呂）

障害者自立支援へ 授産製品を景品に 県遊技業協組

県遊技業協同組合（富田直樹理事長）は20日、県内の障害者福祉事業所から購入した授産製品を、加盟するパチンコ店188店舗で景品として提供する取り組みを始めた。

障害者自立支援活動の一環で2000年度から毎年継続し、今回で25回目。本年度は10事業所から約20製品、約4万1千個（376万円相当）を購入した。

静岡市駿河区のABC静岡町店でセレモニを実施。授産製品の提供を各事業所に呼びかけた認定NPO



さまざまな種類の授産製品が手渡されたセレモニ（静岡市駿河区）

菓子、置物作り 事業所利用者がやりがい

浜松市内の障害福祉事業所の利用者が手がけた製品を販売するイベントが、同市中央区志都呂のイオンモール浜松志都呂であった。

NPO法人オールしずおかベストコミュニティ（静岡市）が開き、8事業所が参加。店頭には焼き菓子やアクセサリ、縫製品など約300点の製品が並んだ。

猫やだるまの置物を製作した浜名区の人形将太さん（31）は「多くの人に自分が作ったものを手に取ってもらえるのに立ち会えると、作業したかいがあると感じる。これからも陶芸品作りに力を入れたい」と話した。

（服部剛士）



会場に並ぶ手作り製品（浜松市中区のイオンモール浜松志都呂）

メイクで笑顔と自信 障害者支援施設利用者楽しむ 葵区で講座

障害者福祉支援に取り組むNPO法人「オールしずおかベストコミュニティ」は6日、障害者就労支援施設の利用者にメイクやスキンケアの方法を伝える「ビューティーセミナー」を静岡市葵区のウエルシア薬局静岡葵店で開いた。

県中部の5つの事業所から9人が参加。資生堂ジャパンの社員が講師を務め、スキンケアの基礎やメイク手順などを指導した。参加者は講師の手本や同店のビューティーアドバイザーのサポートを受けながら、実際に化粧水を塗ったり眉を描いたりして第一印象を良くする身だしなみのポイントを学んだ。

参加した杉山寛さん（41）同区は「もっと技術を学んで自信をつけたい」とほほ笑んだ。講師の林香里さん（41）は「メイクを通して新たな自分に出会え、きっかけになれたらうれしい」と話した。

福祉施設などのニーズをマッチングする「企業CSR連携促進事業」の一環。今回で2回目の開催となる。

（社会部・松坂浩）



メイクを楽しむ参加者（静岡市葵区のウエルシア薬局静岡葵店）